

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4372601031
法人名	医療法人 かとれあ会
事業所名	グループホーム かとれあ会
訪問調査日	平成 21 年 1 月 30 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPO くまもと

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	4372601031
法人名	医療法人社団 かとれあ会
事業所名	グループホーム かとれあ会
所在地	熊本県合志市栄2325-1 (電話) 096-247-2820

評価機関名	特定非活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年2月4日

【情報提供票より】(20年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	13 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 17.62 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	4階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(12月30日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 森の里クリニック 国立療養所 菊池病院 さかえ歯科クリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋4階建ての2、3階の住居フロアであるホームは職員の質の高いケアにより、安心して家庭的な穏やかな生活が送られている。各入居者の能力を理解し、最大限に引き出せるような場面提供により充実した生活を送れるように支援し、本人の意向に沿えるように努めている。家族との関係も大切にし、厚い信頼関係が構築されている。地域との交流を目的とした「ファミリーコンサート」「夏祭り」「冬の収穫祭」は恒例化されつつあり、地域へのホーム・認知症の啓発・発信も積極的に行なっており、地域との連携に関して今後の成果が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型施設としての理念の検討に関しては、毎週の勉強会で自己評価を行い、日頃のケアを振り返り、理念に添ったケアが提供できているかの再確認している。地域密着型施設として入居者が地域の中でその人らしく暮ら続けられるために、入居者・家族の「今」の思いに添う分かりやすい理念を新しく作り上げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己・外部評価の意義や目的については新職員を含め全員が理解しており、今回も各ユニットごとに全職員で実施し、管理者がまとめたものである。改善項目については職員間で検討し、改善にむけて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホームの行事や困難事例の取り組み状況や外部評価の報告等を行い、ホームや認知症について理解・啓発に努めている。ホームの行事の際に会議を開催することもあり、隣接の遊休施設の利用と共に開かれたホームを目指している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会行事参加の際に入居者のホームでの暮らしぶりの報告等を詳細に行い、電話でも連絡し家族に喜ばれており、面会の回数も増加している。面会の際には入居者と共にお茶や食事を摂ってもらい、ホームの雰囲気や入居者の生活ぶりをゆっくり体験してもらうようにしている。また月1回の便りの送付や運営推進会議のメンバーとして家族に参加をしてもらい、意見や要望を出してもらうようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	朝の道路清掃・犬の散歩等の際に事務長が率先して挨拶や会話を欠かさず、普段より交流の輪を広げるように努めている。ホームの行事の参加の呼びかけも、徐々に成果が上がっている。また、ボランティアによる訪問や当施設4階を利用の子育てグループとの日常的交流なども入居者の楽しみ事になっている。今後は地域との災害時や緊急時の連携体制構築が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(<input type="radio"/> <input type="radio"/>)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前の理念を見直し、全職員で考えた新しい分かり易い理念を作成し、家族と地域の方との縁を大切に家庭的な環境の下、入居者の「今」の思いに添うような支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員採用時や月1回の会議や、毎週の勉強会や毎日のミーティングにおいて、ケアの具体例を挙げ、理念に基づいた実践に努め、職員のケアの統一を図っている。	○	新しい理念の共有のために、家族や地域への説明が望まれます。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の挨拶や会話、地域の行事参加やホームの行事参加案内により、ホームへ来てもらう機会も増加し、徐々に地域の方との交流が深まりつつあり、ホームの理解へとつながっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニット毎職員全員で実施し、自らのケアの振り返りの機会として捉え、見えてきた課題について改善への話し合いを行っている。外部評価結果後は課題や改善事項について話し合う予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの様子を理解してもらえるように、行事(ファミリーコンサートなど)の際に開催することもある。理念の説明は毎回実施し、行事報告や外部評価結果や行政より介護関係の法令改正の講話なども行なった。委員との質問や意見交換を通してホームや認知症の理解・啓発に努めている。		

グループホーム かとれあ会

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加の他、様々な相談等、サービスについての助言をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時の他、近況報告をこまめに行っている。状況悪化だけでなく、良い変化の際にも報告し、家族に喜ばれており、面会增加につながっている。毎月「かとれあ会たより」を発行し、写真でも報告している。金銭報告や職員異動の際にも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会開催時に意見・要望を言い易い雰囲気作りに努め、出された意見等に対しては迅速に職員全員で検討・改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は出来るだけ避けており、ユニット間での異動も控えている。離職時には時期の配慮や新人研修等を綿密に実施し、徐々に入居者との馴染みの関係を構築するよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回のホーム内での勉強会や、職責・職歴に応じた外部研修に参加し、報告し、レベルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の5事業所による週1回の情報交換を兼ねた会議参加や、2ヶ月に1回の地域ブロック研修会に積極的に参加し、困難事例の意見交換など行い、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族と共に見学してもらい、他の入居者とお茶や食事を共にし、雰囲気を感じて馴染んでもらい、安心して入居できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を理解するために、生活暦や家族からの情報、日々の関わりの中で一緒に過ごすことでこだわりや不安を知り、入居者の今に添ったケアを継続することにより、支え合う関係作りが行なわれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望・要望を尊重し、身体状況に応じて支援するようにしている。意思の伝達が困難な方は表情や様子などの観察により判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意見・要望を把握し、職員全員でアセスメントを作成し、担当者と計画作成担当者が中心となり介護計画を完成させている。介護計画は入居者・家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価・見直しを行なっている。変化があれば随時見直しを行い、本人や家族の要望に応じた的確な計画の作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の要望に応じて通院介助や外出等の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿うよう以前のかかりつけ医の医療を受けられるよう支援している。家族の通院介助が基本であるが、要望があれば情報交換しながら同伴等の対応をしている。また、看護師も配置し、定期的な協力医療機関の看護師訪問もあり、緊急時の対応に備えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を作成し、入居時や家族会の際に説明している。重度化や終末期には早い段階から家族・本人・主治医・ホーム職員と話し合いを重ね、全員で方針を共有するようにしている。	○	看取りに関する職員の研修継続が期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬語を心がけ、入居者のその時に応じた言葉かけや対応に努めている。個人情報の保護にも努め、ホーム便りの写真掲載や記録に関しても配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の一人ひとりのペースを大切に、家族と相談し、本人中心のその人らしい自由な生活を支援している。		

グループホーム かとれあ会

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と相談しながら各ユニット毎にメニューを作成し、調理している。買い物・準備・片付け等は出来る入居者と共に行なっている。ホームの菜園からの野菜が食卓に上ることも多く、家族の面会時にも一緒に食事を摂ってもらうこともあり喜ばれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じた入浴支援を行っている。入浴が楽しめるような場面作りに努めている(ゆず湯など)。拒否の場合には時間を置いたり、声かけを工夫するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗い物など、入居者の役割やできることを把握し、場面提供を行い、感謝の言葉をかけるようにしている。歌・花活け・読書・お茶の接待などの楽しみ事や役割があり、畑作業や洗濯干しなどの気晴らし支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や気候に応じて買い物・散歩・庭での食事・畑作業参加等、希望に応じて外出するようにしている。月1回の受診や行事等を計画し、外出の機会を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に1階の玄関以外は鍵をかけていない(外部侵入防止)。定時に入居者の所在確認を行い、入居者中心のケアを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署に依頼して防火訓練・応急手当・初期対応の研修を実施した。夜間想定通報訓練や入居者参加の避難訓練も行なった。	○	建物の構造上、避難訓練は重要だと思われます。日常より職員間での話し合いの機会を持たれることが望まれます。また、地域との協力体制へ向けての取り組みも期待されます。

グループホーム かとれあ会

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嚥下能力等に応じて食事の形態を変えている。水分・食事量のチェックを行い、食事の摂取量が少ない場合は、食べる場所を変えたり、水分摂取が少ない場合は好きな飲み物を提供するなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花で出迎え、共有部は各ユニット毎に特徴があり、季節感や家庭的な雰囲気醸し出す装飾を施している。いたる所にくつろげる場所を設置し、居心地良く過ごせる工夫がしてある。職員会話やテレビ、CDの音量にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、入居者に応じた安全で居心地の良い居室作りの支援がされている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 かとれあ会 グループホームかとれあ会
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	合志市 栄 2325-1
記入者名 (管理者)	西村久幸
記入日	平成 21年 1月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	家族の面会時に食事やおやつなど一緒にとってもらい家族がいつでも来れる雰囲気作りを心掛け、利用者、地域の皆様の参加も促すようなイベントなどを家族会の皆様のホームとの積極的な関わりを得て企画していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念に基づくケアも利用者の状態変化により日々変わるもの。今後も日々のカンファレンスなどにより何がその人にとって理念に基づくケアなのか求め続けていきます。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	利用者が地域の中で暮らしていく事を支えていくためには当事業所のみならず家族、地域の事業所全体の協力も必要である。地域へはグループホームにて空いているスペースを会議等に使用していただき、認知症ケアの悩み相談などあれば受け、共に支え合っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	ホームは新栄温泉団地にあり、交流を深めてきたが、同じく隣接する鹿水地区の利用者(初の地元よりの入居者)が入居されたこともあり近所の馴染みの方々との面会来訪も有り今後この方々を通して交流の輪を広めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	子育て支援グループの方と一緒に近隣の公園で昼食会を行ったり、裏の畑の芋ほりと一緒に過ごしたりしている。利用者の皆様の加齢もあり外出する機会減少が懸念される中、合志中学校コーラス部、ボランティアのハーモニカ演奏、お話ボランティア、子どもの日本舞踊など施設を利用したイベントを今後とも企画し利用者との交流する機会を設けていきたい。また可能なら近くの保育園の行事などへ出掛けるなど検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日々のカンファレンス、毎週の勉強会を通して介護の専門職として介護の個々の対応策の検討を行い技能・知識を深めるようにしている。施設の見学や入居の申込時に家族の介護の状況を傾聴し、困難事例の話があればホームでの具体策の話をし家族での対応時のヒントになればと心掛け話している	○	運営推進委員会などで地域のお年寄りの情報を聞いたりして、認知症の利用者の介護により習得した知識技能を在宅方々と一緒になって考える機会を設けたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後全員でミーティングを行い、指摘事項を改善し、ガイドブックに添って支援のズレがないか確認している。前回より新しい職員の加入もあり、今回の自己評価も各フロア全員参加で取り組むことにより理念、地域や家族との関わり、介護に対する考え方、その利用者らしい介護など改めて振り返るいい機会となった。	○	毎週行われている勉強会で、今後もサービス評価項目の意義・意味の理解度をあげる為、定期的に項目毎に取り上げ職員の知識、意識の向上を図っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夏祭りなども地域の皆様、利用者、家族、職員が一緒になって交流し理解し合う広義の運営推進会議と考え地域、家族会、職員一緒になってハンドメイドの夏祭りを行っている。実際の会議では外部評価の報告や困難事例の取り組み状況、職員アンケートの説明や、外部評価の結果報告改善案などを伝えている。運営推進委員の方々に認知症・グループホームを理解していただき地域に伝える窓口となっていただくことで地域の方々にも理解していただけるよう努めている	○	会議の中ででた利用者も一緒でのピクニック、芋ほりなどは恒例化しつつある。困難事例の報告、パワーポイントによる日頃の生活ぶりの紹介などでホームの理解にもつながってきた。 今後も開かれたホームであるため、運営推進会議の方々 の意見を傾聴しホーム運営に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今やかとれあの3大イベントとなった春のファミリーコンサート・夏祭り・冬の収穫祭と参加いただいております。職員の退職の時も何度も窓口を訪問し相談したりした。相談ごとには親身になって応じていただいております。また市町村窓口を訪れ情報交換に努めている。	○	高齢者支援課に限らず、地域包括ほか、市町村の方々の助言をいただき、サービスの向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用者はないが、権利擁護の研修の案内があれば、リーダーを中心に数回参加し知識習得に努めてきた。毎週火曜の勉強会で知識を深めている。	○	職員も権利擁護については学習途上であるも、地域の方と交流する中で、市町村と連携を図り機会があれば一緒に学習する機会を設けることができたらと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に添って支援し、理念を徹底すると共に職員のストレスは職員同士で話し合うことで軽減に努めている。またフロアミーティングにより意見交換し対応方法の検討を重ねている。「拘束のマニュアル」作成したが、新人が入職すれば、虐待・拘束は必ずカリキュラムに入れ研修してきた	○	今後も安全と拘束の観点から理解を深めるように勉強会を行ない意識向上に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込の見学の段階から理念の説明をして、食事やおやつなど食べていただきホームの実際の雰囲気や利用者様の生活ぶりをゆっくり体験いただくようにしている。その中で在宅介護の中での困りごとなどの相談あれば経験を活かして親身に应对している。ご本人にもなるべく体験していただくようにしており、契約の段階でも十分に説明し納得いただいで契約している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスなどで利用者の情報を共有することで利用者のサインを理解できるように心がけている。また家族との情報交換を密にすることでご家族を通して、ケアに関する意見、不満、苦情など話しやすい雰囲気作りを心がけている。利用者のケアに関する苦情はその場で解決し、担当者会議などを利用し家族の意見や思いを聞き出し利用者家族の安心につなげている。	○ 利用者の態度、言葉から今の思いを感じることが出来るように努力しているので、今後も利用者の立場に立ち思いに添えるようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	普段より家族との連絡を密にするように心がけているし家族の面会の回数も多くなってきている。面会の都度近況報告を行い、また毎月1回発行のかとれあ便りにて生活の様子を写真、文章にてお知らせしている。スタッフの異動も随時報告し、金銭管理についてはパソコンに入力し領収書貼り付け不定期的に家族に報告し確認してもらっている。	○ 毎月1回の便りの発行や、利用者さんと食事やおやつと一緒にとってもらいながらの報告は今後も継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何より大事なことは、ご家族等が気軽に話せる雰囲気作りと思っている。その為には日頃からご家族とのコミュニケーションを密にすることが必要。言いにくいことなど壁を作らず素直に話すように心がけている。管理者が苦情受け付け窓口になっており、公的窓口の紹介は必要に応じて行っている。玄関入口にアンケート用紙入れを設置しており、運営推進会議や家族会の交流の場で報告し迅速対応を心掛けている。	○ 今後も家族からの相談・意見・不満・苦情などを気軽に伝えられる雰囲気作りに努め、もし苦情等寄せられら場合は迅速な対応をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例的には、月一回の全体会議で職員からの意見、提案、相談など聞いている。急ぎの案件かどうか、現場で対応できるかどうか、早急に見極め対応するように心掛けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成する時に、イベントや受診時にはスタッフを厚くしたり、利用者の状態によっては遅出を付けたり、ユニット間の応援体制も含めて柔軟な対応を心がけている。	○ フロア間の連携を密にし、柔軟な対応を継続していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員との馴染みの関係を壊さぬように極力ユニット間の異動も控えるようにしている。離職がある場合もその時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。入職者に利用者の情報をしっかりと伝え、先輩である利用者からホームのことをきちんと教えて貰えるよう工夫をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今回の自己評価も全員が関わりをもち考えるようにカンファレンスなどの時間も利用して行った。毎週勉強会を行っており、新人研修やブロック研修、講演会などスタッフのレベルに応じて選択し、レベルアップに繋げている。実践者研修、実践リーダー研修などは、有資格者に積極的に受講できる様に心がけている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループの5事業所が毎週集まって情報交換したり、2ヶ月に1回のブロック研修会に積極的に参加している。同じ地区の他事業所と困難事例に対して意見交換などを行って、質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者日々対応する職員の疲労、ストレスが蓄積しないような環境作り、勤務時間中にも気分転換できる休憩室を確保したり、職員同士のデリケートな人間関係を把握するよう努めている。	○ 業務柄職員のストレス解消は常時意識して取り組みたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	気軽に相談できる雰囲気作りに努め、随時面接を行い相談を受けている。職員が向上心を持ち仕事ができるように又個々の職員の努力を公平に評価する環境作りに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訴えができない利用者に関しては、本人の行動を観察し、言動を受け止め対応している。訴えに傾聴しできる限りの要望は応じる努力はしている。できないところは本人の理解を得られる様な言葉かけ、対応にて、改善に向けてのミーティングを随時行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	イベントや担当者介護等で、家族と接する機会を多く持ち、信頼関係を築いた上で、心の思いを伝える場面づくりを行い努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望等の相談時、本人家族に合ったサービスの提供ができるか見極め相談ケースに応じ包括や他事業所の情報提供を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人を知ることを重視し、安心できる環境作りを心掛け家族と共に馴染みの関係作りに努めプランを作成し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴や人生の先輩としての尊厳を大切に喜怒哀楽を共有し共に支えあう関係作りを心掛けている。	○	出来るだけ時間を共有し、今に添ったケアを継続していきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えることの協力関係が築けることが多くなってきている。イベント、行事の際は必ず声を掛けるようにしている。	○	すべての家族とのコミュニケーションを大切にしお互いの情報交換を継続していきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来やすい雰囲気作りに努めゆっくりした時を過ごして頂ける様努力している。	○	来訪時にはできるだけ長い時間過ごしていただくために一緒に食事していただいたり行事参加を誘っているが、家族と共に外出・外泊して過ごされることによって思い出作りをされるなど家族の支援も心掛けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物同行や外出でなじみの場所へドライブしたり雰囲気や環境の似た、本人の落ち着く場所への外出サポートを多く持つよう心掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は認知レベルの違い等もあり、いつもがよい関係とはいかないが、スタッフが仲を取り持つ努力を行い利用者同士のより良い馴染み関係づくりを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えある人は傾聴し対応、利用者の安心に努めている。家族参加も強引にお願いすることはせず、利用者本位に対応している。意思の伝達が困難な方の表情や様子を観察し職員間の情報の共有に努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人の会話の中から生活歴や本人の馴染みの暮らし方等情報の収集に心掛けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活リズムに合わせてスタッフ全員でアセスメントし、出来る事に着目し利用者が有する力を発揮できる場面づくりに心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時ミーティングにて課題に対して検討を行っている。遠距離の家族様からは十分な要望や意見が聞けていないが働きかけは行っている。	○	利用者本位の介護計画になるように柔軟な気持で意見を取り入れ今後も介護計画を作成していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画の見直しは、フローミーティングや家族との面談で出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	デューリー記録・業務日誌・申し送りノートを職員は記録、実践している。状態変化や、注意が必要な時は口頭での申し送りの他、記述行っている。またそれらの記録をもとに介護計画の見直しなどに活かしている。	○	記録の仕方をスタッフが分かりやすく、実践に活かせるように今後も検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が何時来られても、利用者と気持ちよく安心して過ごしていただくためにお茶や食事を勧める様にしている。又、帰宅願望強いときは出来るだけ同行し落ち着いていただいている。	○	家族の面会が増えてきているので来られた家族が心地よく過ごせる雰囲気作りを今後も心掛けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられる様に年2回の消防訓練・運営推進委員会イベント時のこえかけで参加を促している。地元中学生の定期的な演奏や、地元のハーモニカ奏者の方、夏祭りの際は地域の方の出し物などボランティアの協力受け入れに力を入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時、情報交換、相談などを行い、ブロック研修(他グループホームとの勉強会)で事例検討や学習会行っている。	○	他のサービス利用に関しては必要性があれば応じて行くように心掛けたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時には地域包括支援センターに相談し協力を得ていきたい		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医は継続されている。受診の際は家族にて送迎を行ってもらっており、家族からの要望があれば同伴等の対応をしている。お互いにその時、情報交換している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々のかかりつけ医に必要時に応じ随時、相談、助言いただくようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所にも看護師が職員として在籍しており、協力医療機関である森の里クリニックの看護師が定期的にホームを来所することにより、連絡を密にし、緊急時に対応出来るようにしている。	○	健康管理や、受診情報を家族に伝えているため今後も継続していきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	過去1年はないが早期退院にむけ医療機関との情報提供の共有に努め、連携を図りたい		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期には早い段階から家族や主治医、スタッフと繰り返し話し合いを重ねキーパーソンを中心に方針を確認し共有し全員で取り組んだ。	○	家族の方針に添って看取りを行い学べたことを今後も全員で方針を共有し継続していきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に利用者、家族が今何を望んでいるかを聞き取り主治医の指示を得ながら家族、スタッフ全員で話し合いより良い終末期である様に勉強会などで学びを深めている。	○	今回の看取りで職員の思いや感じたことをアンケートを取ったのでその結果を元に今後の看取りに繋げていきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際、本人、家族等、前施設の関係者と情報交換を行い、利用者の混乱を防ぐことに努める		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊重した言葉遣いに心掛け、本人の尊厳を大切にし対応している。言葉遣いは敬語を心掛け、本人との関係、場面、反応によってその時に応じた声かけをようにしている。ホーム便りなどで写真を掲載していることは了解得ている。個人情報に記載した文書は持ち帰らないなど慎重な取り扱いを心がけている。	○	日々の個人の記録は目立たない、個人情報に記載されている文書の保管を今後も厳重に行っていききたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事やおやつの際は、食べたいものをなるべく利用者に聞いている。自分の意志が伝わりにくい人にはそういう場面作りを心掛けている。一番風呂にこだわりを持つ利用者には、できるだけその思いに添っている。しかし共同生活なので、時と場合においては順番が後になることを説明し、納得いただくようにしている。	○	今後も利用者の出来ること出来ないことを見極め本人のペースに合わせた支援を心掛けていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はずその時に応じた支援を心掛け、その人らしい暮らしが営めるように利用者に合わせて支援を行っている。外出希望等あればなるべく早く対応するように心掛けている。本人の帰宅願望が強いときには家族の協力をお願いしたりしながら、本人の納得のいく支援を心掛けている。	○	入居者が重度化された事もあり、本人の意思に添えない部分もあったが、本人のペースに合わせた支援ができるよう心掛けたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみの面では出来るだけ利用者に衣服の選択をしてもらうよう場面作りを行っている。理容に関しては行きつけの美容室がある方は御家族の協力を得て支援を行っている、そうでないかたは移動美容室をご利用いただいている。	○	そのひとらしい生活とは何なのか勉強会や事例など通じて学びを深めていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせた材料選び、味見、配膳、皮むき、盛り付け、後片付けなどおこなってもらっている。ホームには菜園があり食材となっている。食事が1日の活力の源になるような支援心掛けている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	望まれる利用者には要望に応じた物を提供するよう心掛けている。可能なときは一緒に買い物にも出かけるよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼夜尿汚染の多い利用者2名は、医療連携と精神面のサポートにより尿取りパットを外す事ができたり、排泄パターンを知り誘導を行う事で汚染が減り、利用者の方も心身落ち着かれるという成果が見られている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意志に添った入浴支援に心掛けている、拒否がある方はタイミング、言葉かけを工夫し、ゆず湯や菖蒲湯など入浴を楽しめる場面作りにも心掛け支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の過去の生活スタイルを尊重し、希望や体調に合わせて日中でも各居室で横になることが出来る。就寝時間を決めずその人の希望に添うよう心がけている。休まれるまで傍で添い寝をしたり安心されるよう心掛けている。共有スペースには休めるようにソファ・椅子を配置している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮していただくために、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉「ありがとうございます」と必ず声掛する様に心がけている。花の水やり、買い物、食材の皮むき、だご汁作り、ぬり絵などしていただくことで張り合いのある一日となるように心がけている。また場面を変えるため気晴らしに畑や洗濯物干しにお誘いするよう支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前外部評価で指摘を受け、直ぐに試みたがご家族、利用者の希望がないため支援していない。外出などの際は、職員が代行し支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や気候に応じて買い物同行や戸外の散歩、庭での食事や畑作業の参加など本人の希望を聞き支援している。その他月1回の受診や行事等を計画し戸外に出る機会を多く持つ様支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたい場所を聞き、行楽地や自宅帰省など家族の協力とともに支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は家族と直接話して貰うなどの支援している。手紙や葉書などは混乱されないよう工夫し、力が発揮できるよう支援するよう心掛けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも訪問可能である、訪問時はお茶、食事の提供している。他の利用者に気兼ねなく過ごしていただくため、4階を使って家族だけで米寿の御祝いされたり、最近、近くの方の入居もあり友人揃っての面会もあっている。家族より希望あれば家事参加もしていただいております常に気軽に訪問できるホームである様に心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常介護の中で身体拘束については理解を深めるように努力している。	○	今後も安全と拘束の観点から理解を深めるように勉強会を行ない意識向上に努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に玄関以外は鍵を掛けない。(外部進入を防ぐため)建物内やユニット間、中庭への移動も自由に出来る。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室やトイレでの所在確認の際は必ずノック、了解を得るなどのプライバシー配慮に努め、定時に利用者の所在は把握している。チェックシートに所在、様子の記入を行なって徘徊時早急な対応が出来るように活用している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為のある可能性がある方の部屋には飴や異食に繋がる物を置かないように心掛けている。また経口摂取などで害がある物は目に付かない場所に収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐための対応策を講じてきた。(ガスコンロロック確認・衣類チェックシート・服薬確認シート等)週1回の勉強会でヒヤリハット・事故報告などの事例発表し職員で原因・対応策など検討している。またグループ内にリスク委員会があり定時に報告、情報を共有し知識を深め事故予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼して(防火訓練の際)応急手当、初期対応の指導を受けた。グループ内で誤薬、嚥下障害、転倒、離脱など事例発生時に対応策を検討し、各事業所が情報を共有するようにしている。各フロアーには緊急時対応マニュアルがあり何時でも見れるようにしている。	○	定期の防火訓練の際には救命救急法などの訓練は継続して受けるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼して(防火訓練の際)応急手当、初期対応の指導を受けた。施設が2階、3階にあり火災が一番恐れるところで火元の管理には細心の注意をしている。	○	運営推進委員会などを利用し、今後、地域の方に災害時協力していただけるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や担当者会議等で具体的に説明し理解を求めている。毎日のカンファレンスやフロアーミーティングで対応策を検討している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の普段の状況を把握している。バイタルチェックを毎日行い体調に変化の有る際は森の里CLと連携を図っている。場合によっては家族に連絡、相談し受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人服薬明細を各フロアーに配置しており個人の服薬内容が確認出来るようになっている。服薬の際には、手渡しし確実な服薬を確認している。薬の変更や追加がある場合は家族に報告し、本人状態変化がある場合は記録し協力医療機関のクリニック看護師と連携を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便確認(声かけや、トイレ後の観察を行う)をし出来るだけ乳製品や食材を取り入れ工夫して提供している(牛乳・ヨーグルト・プルーン等)、家事参加などで身体を動かす機会を適度に設けるよう心掛けている(徘徊なども運動と捉えている)利用者によっては腹部マッサージなど施行。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きを促し、出来ない部分の介助にも努めている訪問歯科による口腔ケアの指導等も受け、個人に合った口腔清潔に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の摂取量はチェックシートに記録している。食欲の向上のため、食事形態を工夫し、個人に合った量や好物などの提供にも努めている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内のグループホームに健康委員会を設けており早期に連絡を取り合っている。又各ユニットにマニュアルを設置している。勉強会で感染症予防対策の勉強に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	無駄が出ないような食事作りをしている、残り物はその日に消費するようにし、買い置きをせずこまめな買い物を心掛けている。手洗いの励行・乾燥機の使用・フキンまな板などはハイターで除菌、清潔を心掛けている。冷蔵庫内の鮮度チェックや肉・魚類はすぐ冷凍するよう心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階のクリニックが休診中、グループホームが2階、3階という事もあり玄関横の花壇、玄関外のプランターには花を植え、玄関内には花瓶を置き、四季折々の花により季節感を感じられる様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部に季節の飾りつけや、家族、職員が持参した花、中庭の季節の花などを置いたりしている。花を生ける時には利用者の皆さんにも声をかけ一緒に生けたりして、居室内にも花を置くように心掛けている。また、スタッフはあわただしい動きや会話、テレビや、CDの音量に充分注意するよう心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席の配置を工夫している。それぞれに居心地の良い場所で過ごされているためトラブルにならないように心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が主になって居室作りされている。混乱や危険防止の必要がある場合は家族と相談し工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症予防の上からも十分な換気を行い温度調節にも心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの工夫、庭や畑に通じるスロープの設置。タンスやベッドの高さも本人が使いやすい高さになっている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者個々の解る力を職員はきちんと把握し、自立した生活が出来るよう場面作りに工夫して混乱や失敗を極力防ぎ残存能力を生かしたケアに取り組んでいる		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏は全居室のベランダに朝顔を置き、冬はその人の力に合わせ鉢物を置いて水やり等お世話をされるように場面作りしている。畑には季節の野菜を植え、収穫したり外の景色や空気を何時でも楽しめるように椅子やテーブルを庭に設置している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ※ 利用者のもっている能力を最大限に引き出せる支援に努めている
- ※ 本人の持っている力を最大限に活かせる様な支援をするようにしている。
- ※ 食事作りやおやつは手作りの温かい物を提供できるよう心掛けている。
- ※ 本人の意向に添えるように最大限の努力をしている。
- ※ 家族の面会時は挨拶を忘れない。お茶、食事を提供し、笑顔で接する様に心掛けている。
- ※ 年度末に事業所としてスローガンを職員で決め目標に向かって取り組んでいる

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 かとれあ会 グループホームかとれあ会
(ユニット名)	3階
所在地 (県・市町村名)	合志市 栄 2325-1
記入者名 (管理者)	碓井紀子
記入日	平成 21年 1月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>家族の面会時に食事やおやつなど一緒にとってもらい家族様がいつでも来れる雰囲気作りを心掛け、利用者様、地域の皆様の参加も促すようなイベントなどを家族会の皆様のホームとの積極的な関わりを得て企画していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>理念に基づくケアも利用者の状態変化により日々変わるもの。今後も日々のカンファレンスなどにより何がその人にとって理念に基づくケアなのか求め続けていきます。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>利用者が地域の中で暮らしていく事を支えていくためには当事業所のみならず家族、地域の事業所全体の協力も必要である。地域へはグループホームにて空いているスペースを会議等に使用していただき、認知症ケアの悩み相談などあれば受け、共に支え合っていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>ホームは新栄温泉団地にあり、交流を深めてきましたが、同じく隣接する鹿水地区の利用者(初の地元よりの入居者)が入居されたこともあり近所の馴染みの方々の面会来訪も有り今後この方々を通して交流の輪を広げていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>子育て支援グループの方と一緒に近隣の公園で昼食会を行ったり、裏の畑の芋ほりをおこなったりしています。利用者の皆様の加齢もあり外出する機会減少が懸念される中、合志中学校コーラス部、ボランティアのハーモニカ演奏、お話ボランティア、子どもの日本舞踊など施設を利用したイベントを今後とも企画し利用者と地域の皆様との交流する機会を設けていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日々のカンファレンス、毎週の勉強会を通して介護の専門職として介護の個々の対応策の検討を行い技能・知識を深めるようにしている。施設の見学や入居の申込時に家族の介護の状況を傾聴し、困難事例の話があればホームでの具体策の話をし家族での対応時のヒントになればと心掛け話している	○	運営推進委員会などで地域のお年寄りの情報を聞いたりして、認知症の利用者の介護により習得した知識技能を在宅方々と一緒になって考える機会を設けたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価について全員で話合い介護に対する振返りができた。前回より新しい職員の加入もあり、今回の自己評価も各フロア全員参加で取り組むことにより理念、地域や家族との関わり、介護に対する考え方、その利用者らしい介護など改めて振返るいい機会となった。	○	今後もサービス評価の意義・意味を勉強会にて定期的項目毎に取り上げ職員の質の向上をはかりたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夏祭りなども地域の皆様、利用者、家族、職員が一緒になって交流し理解し合う広義の運営推進会議と考え地域、家族会、職員一緒になってハンドメイドの夏祭りを行っている。実際の会議では外部評価の報告や困難事例の取り組み状況、職員アンケートの説明や、外部評価の結果報告改善案などを伝えている。運営推進委員の方々に認知症・グループホームを理解していただき地域に伝える窓口となっていたこと地域の方々にも理解していただけるよう努めている	○	会議の中ででた利用者も一緒でのピクニック、芋ほりなどは恒例化しつつある。地区の公民館がないとのことで、遊休施設の利用につながったりしており、困難事例の報告、パワーポイントによる日頃の生活ぶりの紹介などでホームの理解にもつながってきた。今後も開かれたホームであるため、運営推進会議の方々
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今やかとれあの3大イベントとなった春のファミリーコンサート・夏祭り・冬の収穫祭と参加いただいております、いろんな面で窓口を訪問し相談したりした。相談ごとには親身になって応じていただいております職員さんにもかとれあ会を認識いただいていると思う。	○	高齢者支援課に限らず、地域包括ほか、合志中学校なども馴染みの関係作りに努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用者はないが、権利擁護の研修の案内があれば、リーダーを中心に数回参加し知識習得に努めてきた。毎週火曜の勉強会で知識を深めている。	○	職員も権利擁護については学習途上であるも、地域の方と交流する中で、市町村と連携を図り機会があれば一緒に学習する機会を設けることができたらと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に添って支援し、理念を徹底すると共に職員のストレスは職員同士で話し合うことで軽減に努めている。またフロアミーティングにより意見交換し対応方法の検討を重ねている。「拘束のマニュアル」作成したが、新人が入職すれば、虐待・拘束は必ずカリキュラムに入れ研修してきた	○	今後も安全と拘束の観点から理解を深めるように勉強会を行ない意識向上に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込の見学の段階から理念の説明をして、食事やおやつなど食べていただきホームの実際の雰囲気や利用者様の生活ぶりをゆっくり体験いただくようにしている。その中で在宅介護の中での困りごとなどの相談あれば経験を活かして親身に應對している。ご本人にもなるべく体験していただくようにしており、契約の段階でも十分に説明し納得いただいで契約している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスなどで利用者様の情報を共有することで利用者様のサインを理解できるように心がけている。また家族との情報交換を密にすることでご家族を通して、ケアに関する意見、不満、苦情など話しやすい雰囲気作りを心がけている。利用者のケアに関する苦情はその場で解決し、担当者会議などを利用し家族の意見や思いを聞き出し利用者家族の安心につなげている。	○ 利用者の態度、言葉から気持を察し、利用者本位の運営を心掛け継続して行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	普段より家族との連絡を密にするように心がけているし家族の面会の回数も多くなってきている。面会の都度近況報告を行い、また毎月1回発行のかとれあ便りにて生活の様子を写真、文章にてお知らせしている。スタッフの異動も随時報告し、金銭管理についてはパソコンに入力し領収書貼り付け不定期に家族に報告し確認もらっている	○ 毎月1回の便りの発行や、利用者さんと食事やおやつと一緒にとってもらいながらの報告は今後も継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何より大事なことは、ご家族等が気軽に話せる雰囲気作りと思っている。その為には日頃からご家族とのコミュニケーション密にすることが必要。言いにくいことなど壁を作らず素直に話すように心がけている。管理者が苦情受け付け窓口になっており、公的窓口の紹介は必要に応じて行っている。玄関入口にアンケート用紙入れを設置しており、運営推進会議や家族会の交流の場で報告し迅速対応を心掛けている。	○ 今後も利用者・意見・不満・苦情などを気軽に伝えられる雰囲気作りに努め、もし苦情等寄せられ人任せにせず迅速な対応をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例的には、月一回の全体会議で職員からの意見、提案、相談など聞いている。急ぎの案件かどうか、現場で対応できるかどうか、早急に見極め対応するように心掛けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成する時に、イベントや受診時にはスタッフを厚くしたり、利用者の状態によっては遅出を付けたり、ユニット間の応援体制も含めて柔軟な対応を心がけている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来管理者の変更は1回あった。利用者や職員との馴染みの関係を壊さぬように極力ユニット間の異動も控えるようにしている。離職がある場合もその時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。入職者には利用者の情報をしっかりと伝え、先輩である利用者からホームのことをきちんと教えて貰う工夫をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今回の自己評価も全員が関わりをもち考えるようにカンファレンスなどの時間も利用して行った。毎週勉強会を行っており、新人研修やブロック研修、講演会などスタッフのレベルに応じて選択し、レベルアップに繋げている。実践者研修、実践リーダー研修などは、有資格者に積極的に受講できる様に心がけている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループの5事業所が毎週集まって情報交換したり、2ヶ月に1回のブロック研修会に積極的に参加している。同じ地区の他事業所と困難事例に対して意見交換などを行って、質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者日々対応する職員の疲労、ストレスが蓄積しないような環境作り、勤務時間中にも気分転換できる休憩室を確保したり、職員同士のデリケートな人間関係を把握するよう努めている。	○ 業務柄職員のストレス解消は常時意識して取り組みたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	気軽に相談できる雰囲気作りに努め、随時面接を行い相談を受けている。職員が向上心を持ち仕事ができるように又個々の職員の努力を公平に評価する環境作りに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訴えができない利用者に関しては、本人の行動を観察し、言動を受け止め対応している。訴えに傾聴しできる限りの要望は応じる努力はしている。できないところは本人の理解を得られる様な言葉かけ、対応にて、改善に向けてのミーティングを随時行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	イベントや担当者介護等で、家族と接する機会を多く持ち、信頼関係を築いた上で、心の思いを伝える場面づくりを行い努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望等の相談時、本人家族に合ったサービスの提供ができるか見極め、相談ケースに応じ包括や他事業所の情報提供を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人を知ることを重視し、安心できる環境作りを心掛け家族と共に馴染みの関係作りに努めプランを作成し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や家族の方の情報をもとにこだわりや、不安に思われることを知り今に添って時間を共有し共に支え合う関係作りを心掛けている。	○	出来るだけ時間を共有し、今に添ったケアを継続していきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えることの協力関係が築けることが多くなってきている。イベント、行事の際は必ず声を掛けるようにしている。	○	すべての家族とのコミュニケーションを大切にしお互いの情報交換を継続していきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時は本人とご家族の潤滑油になるよう職員は心掛けている。	○	来訪時にはできるだけ長い時間過ごしていただくために一緒に食事していただいたり行事参加を誘っているが、家族と共に外出・外泊して過ごされることによって思い出作りをされるなど家族の支援も心掛けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や、自宅に外出する機会を持つようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	馴染みの関係が築けている利用者同士には隣同士の席にしたり一緒に外出したり、食事介助して頂くなどの場面作りを心掛け馴染みの関係を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望がある方にはできるだけ自宅に同行し安心していただいている。強引な家事参加を促さず利用者本位に対応している。意思の伝達が困難な方は日々の表情や様子などを観察し判断している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との会話の中から生活歴を収集出来るように会話するよう心掛けている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを理解し、本人の生活リズムに合わせてスタッフ全員でアセスメントをし、出来ることに着目し本人が安心して暮らす事が出来るような場面作りに心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ全員によるアセスメントを作成しプランに反映している。課題とケアのあり方についてはミーティングや随時話し合い検討している担当者会議で情報交換し計画立案出来るように心掛けている。理解できる方には本人と話し合い納得を得て立案している。	○	利用者本位の介護計画になるように柔軟な気持で意見を取り入れ今後も介護計画を作成していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画の見直しは、フローミーティングや家族との面談で出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	デューリー記録・業務日誌・申し送りノートを職員は記録、実践している。状態変化や、注意が必要な時は口頭での申し送りの他、記述行っている。またそれらの記録をもとに介護計画の見直しなどに活かしている。	○	記録の仕方をスタッフが分かりやすく、実践に活かせるように今後も検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が何時来られても、利用者と気持ちよく安心して過ごしていただくためにお茶や食事を勧める様にしている。又、帰宅願望強いときは出来るだけ同行し落ち着いていただいている。	○	家族の面会が増えてきているので来られた家族が心地よく過ごせる雰囲気作りを今後も心掛けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられる様に年2回の消防訓練・運営推進委員会イベント時のこえかけで参加を促している。地元中学生の定期的な演奏や、地元のハーモニカ奏者の方、夏祭りの際は地域の方の出し物などボランティアの協力受け入れに力を入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時、情報交換、相談などを行い、ブロック研修(他グループホームとの勉強会)で事例検討や学習会行っている。	○	他のサービス利用に関しては必要性があれば応じて行くように心掛けたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時には地域包括支援センターに相談し協力を得ていきたい		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医は継続されている。受診の際は家族にて送迎を行ってもらっており、家族からの要望があれば同伴等の対応をしている。お互いにその時、情報交換している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々のかかりつけ医に必要時に応じ随時、相談、助言いただくようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所にも看護師が職員として在籍しており、協力医療機関である森の里クリニックの看護師が定期的にホームを来所することにより、連絡を密にし、緊急時に対応出来るようにしている。	○	健康管理や、受診情報を家族に伝えているため今後も継続していきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による認知レベルの低下を防ぐためにほぼ毎日スタッフが面会し食事介助など家族と共に支援を行い早期退院に努めた		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期には早い段階から家族や主治医、スタッフと繰り返し話し合いを重ねキーパーソンを中心に方針を確認し共有し全員で取り組んだ。	○	家族の方針に添って看取りを行い学べたことを今後も全員で方針を共有し継続していきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に利用者、家族が今何を望んでいるかを聞き取り主治医の指示を得ながら家族、スタッフ全員で話し合いより良い終末期である様に勉強会などで学びを深めている。	○	今回の看取りで職員の思いや感じたことをアンケートを取ったのでその結果を元に今後の看取りに繋げていきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際、本人、家族等、前施設の関係者と情報交換を行い、利用者の混乱を防ぐことに努める		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いは敬語を心掛け、本人との関係、場面、反応によってその時に応じた声かけをするようにしている。ホーム便りなどで写真を掲載していることは了解得ている。個人情報を記載した文書は持ち帰らないなど慎重な取り扱いを心がけている。	○ 日々の個人の記録は目立たない、個人情報に記載されている文書の保管を今後も厳重に行っていききたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事やおやつの際は、食べたいものをなるべく利用者に聞いている。自分の意志が伝わりにくい人にはそういう場面作りを心掛けている。衣類に関しては自己決定できるような場面作りを心掛けている。	○ 今後も利用者の出来ること出来ないことを見極め本人のペースに合わせた支援を心掛けていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールを作らず、利用者一人一人のペースを大切にし家族と相談し、利用者中心にその人らしく支援している	○ 一人一人のペースに合わせ利用者の「今」に添えるよう支援を今後も続けていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみの面では出来るだけ利用者に衣服の選択をしてもらうよう場面作りを行っている。理容に関しては行きつけの美容室がある方は御家族の協力を得て支援を行っている、そうでないかたは移動美容室をご利用いただいている。	○ そのひとらしい生活とは何なのか勉強会や事例など通じて学びを深めていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決めずその日の利用者の食べたい物を取り入れ一緒に準備や食事片付けを出来る限り行っている。又、面会時には利用者が喜ばれるように一緒に家族と食事をしてもらっている。肉嫌いの方には魚を提供し個別に行っている。ホームには菜園があり食材となっている。食事が1日の活力の源になるような支援心掛けている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	望まれる利用者には要望に応じた物を提供しよう心掛けている。可能なときは一緒に買い物にも出かけるよう心掛けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人に合った時間にトイレ誘導している。不潔行為、放尿・排便がないようにサインを見逃さないようにしている。排便チェック表をつけ医師と連絡取りながら排便コントロールに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が楽しめる場面作りに努めている(ゆず湯等)。入浴の際、(温泉へ行きましょう・お湯があふれてもったいない・一番風呂ですよ等)声かけを工夫するよう心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて日中でも各居室で横になることが出来る。就寝時間を決めずその人の希望に添うよう心がけている。休まれるまで傍で添い寝をしたり安心されるよう心掛けている。共有スペースには休めるようにソファ・椅子を配置している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮していただくために、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉「ありがとうございます」と必ず声掛する様に心がけている。花の水やり、買い物、食材の皮むき、だご汁作り、ぬり絵などしていただくことで張り合いのある一日となるように心がけている。また場面を変えるため気晴らしに畑や洗濯物干しにお誘いするよう支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことで安心される為、御家族の希望もあり1名だけ持っておられる。その他の方は家族の希望やスタッフ間で検討しその方にあつた支援を行っている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回は協力医療機関のクリニックへ全員出かけている。その他に自宅同行、畑や買い物等、戸外に気軽に出掛けられるよう心掛けている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	催し物に出掛けたりドライブ等、出来る限り思いで作れるよう外出支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は家族と直接話して貰うなどの支援している。手紙や葉書などは混乱されないよう工夫し、力が発揮できるよう支援するよう心掛けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも訪問可能である、訪問時はお茶、食事の提供している。他の利用者に気兼ねなく過ごしていただくため、4階を使って家族だけで米寿の御祝いされたり、最近、近くの方の入居もあり友人揃っての面会もあっている。家族より希望あれば家事参加もしていただいております常に気軽に訪問できるホームである様に心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常介護の中で身体拘束については理解を深めるように努力している。	○	今後も安全と拘束の観点から理解を深めるように勉強会を行ない意識向上に努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に玄関以外は鍵を掛けない。(外部進入を防ぐため)異食行為がある利用者があるため異食の可能性のある物が置いてある職員室には家族の同意を得て施錠するよになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時に利用者の所在は把握している。チェックシートに所在、様子の記入を行なって徘徊時早急な対応が出来るように活用している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為のある可能性がある方の部屋には飴や異食に繋がる物を置かないように心掛けている。また経口摂取などで害がある物は目に付かない場所収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐための対応策を講じてきた。(ガスコンロロック確認・衣類チェックシート・服薬確認シート等)週1回の勉強会でヒヤリハット・事故報告などの事例発表し職員で原因・対応策など検討している。またグループ内にリスク委員会があり定時に報告、情報を共有し知識を深め事故予防に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼して(防火訓練の際)応急手当、初期対応の指導を受けた。グループ内で誤薬、嚥下障害、転倒、離脱など事例発生時に対応策を検討し、各事業所が情報を共有するようにしている。各フロアーには緊急時対応マニュアルがあり何時でも見れるようにしている。	○	定期の防火訓練の際には救命救急法などの訓練は継続して受けるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼して(防火訓練の際)応急手当、初期対応の指導を受けた。施設が2階、3階にあり火災が一番恐れるところで火元の管理には細心の注意をしている。	○	運営推進委員会などを利用し、今後、地域の方に災害時協力していただけるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時など具体的に説明し理解を求めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の普段の状況を把握している。バイタルチェックを毎日行い体調に変化の有る際は森の里CLと連携を図っている。場合によっては家族に連絡、相談し受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人服薬明細を各フロアーに配置しており個人の服薬内容が確認出来るようになっている。服薬の際には、手渡しし確実な服薬を確認している。薬の変更や追加がある場合は家族に報告し、本人状態変化がある場合は記録し協力医療機関のクリニック看護師と連携を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ乳製品や食材を取り入れ工夫して提供している(牛乳・ヨーグルト・プルーン等)、家事参加などで身体を動かす機会を適度に設けるよう心掛けている(徘徊なども運動と捉えている)利用者によっては腹部マッサージなど施行。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	こまめな口腔清拭が出来ないため食事のあとの水分補給に努めている。今後昼間の口腔ケアを徹底していきたい。また訪問歯科による口腔ケアの指導も受け個人に合った口腔の清潔に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の摂取量はチェックシートに記録している。お茶を利用者が飲めるように設置したり、利用者が好きな飲み物を勧め、水分補給に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内のグループホームに健康委員会を設けており早期に連絡を取り合っている。又各ユニットにマニュアルを設置している。勉強会で感染症予防対策の勉強に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い置きをせずこまめな買い物を心掛けている。手洗いの励行・乾燥機の使用・フキンまな板などはハイターで除菌、清潔を心掛けている。冷蔵庫内の鮮度チェックや肉・魚類はすぐ冷凍するよう心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階のクリニックが休診中、グループホームが2階、3階という事もあり玄関横の花壇、玄関外のプランターには花を植え、玄関内には花瓶を置き、四季折々の花により季節感を感じられる様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部に季節の飾りつけや、家族、職員が持参した花、中庭の季節の花などを置いたりしている。花を生ける時には利用者の皆さんにも声をかけ一緒に生けたりして、居室内にも花を置くように心掛けている。また、スタッフはあわただしい動きや会話、テレビや、CDの音量に充分注意するよう心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席の配置を工夫している。それぞれに居心地の良い場所で過ごされているためトラブルにならないように心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が主になって居室作りされている。混乱や危険防止の必要がある場合は家族と相談し工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症予防の上からも十分な換気を行い温度調節にも心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの工夫、庭や畑に通じるスロープの設置。利用者に合わせて物干し竿の高さにしたり干しやすい工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立した生活が出来るよう場面作りに工夫して混乱や失敗を防ぐように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏は全居室のベランダに朝顔を置き、冬はその人の力に合わせて鉢物を置いて水やり等お世話をされるように場面作りしている。畑には季節の野菜を植え、収穫したり外の景色や空気を何時でも楽しめるように椅子やテーブルを庭に設置している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	◎	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ※ ご家族の面会時は挨拶を忘れず、お茶等を提供しゆっくり過ごせるように心掛けている。
- ※ 夏祭りの会場は広さを優先し、裏の駐車場で行っていたが地域の方々が気軽に参加いただけるように正面玄関で行った。
- ※ 入居者のペースに合わせて職員が行動するように心掛けている。
- ※ 出来るだけ手作りのおやつ、温かい食事の提供、メニューを決めず入居者さんの食べたいものを取り入れたり工夫している。